

理学部

I	教育水準	教育 13-2
II	質の向上度	教育 13-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、物理、化学、地球惑星科学、数学、生物の5学科から構成される当該学部は、理学部としての期待される基本的組織を備えている。特に、数学科は他学科の1.8～2.2倍の教授数（29名）を有し、学生数は平均数（228名）である。教員一名当たりの学生数は5.5名という恵まれた状況にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育方法、教育内容の改善に向けてかなりの努力がされている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）は学科毎に年1回ではあるが、実施されており、数学科を除いて教員の出席率は比較的高い。全学FDも年1回開催されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、文系、理系に「コア科目」を設定し、高等学校での限られた履修を補填するためそれぞれに最低修得単位を課している。実験等を含む専攻教育の構成は、それぞれの科目の特性に応じてきめ細かく作られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生が積極的に質問するような条件を作っており、また、外国語のニーズに応じた2学科の記載があり、数学科では、英語テキストを使用したセミナー、生物学科では外国人教員による英語の講義（資料3-1-B「授業形態上の特色」）を開催しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、理学部としては標準的な教育方法であるが、講義科目と実験実習科目、フィールドワーク等を各学科の特性やそれぞれの授業形態の特色により組み合わせているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、主体的な学習を促す取組に特別な工夫は認められず、主体的な学習方法として、多くの医学部で取り入れられている「問題解決型」の教育方法を考慮する必要があるが、教育水準は適正であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率（約 80%）、学位取得率（約 85%）、教育職員免許、公務員合格、学生の受賞、論文発表等から相応に資質や能力を身に付けていると判断できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、よりきめの細かいアンケートを実施すること、及び学生からの回答率（35～45%）を上げることが必要であるが、学生の理解力は良好であり、教育の内容も適正であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院進学者が 79%を占め、そのほとんどが九州大学大学院に進学している。また、就職者のうち 68%が専門的・技術的職業に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先へのアンケート結果によると、卒業生からの評価は非常に高い。教養科目から専門科目、プレゼンテーション能力、国際コミュニケーション等のバランスが良く高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。